国際交流・韓国

王宮の美しい庭園、扶蘇山城（プソサンソン）

国際交流員　金雅英（キムアヨン）

皆さん、こんにちは。ゴールデンウィークはどのようにお過ごしでしょうか。

今回は姉妹都市である韓国の扶餘郡（プヨグン）にあり、世界遺産として登録されている「扶蘇山城」についてご紹介したいと思います。

姉妹都市である扶餘は、百済（くだら）の最後の都であったところで、当時は泗沘（サビ）といわれていました。扶蘇山城は、王宮の背後にある扶蘇山の稜線と谷を横切るように築かれたもので、王宮との関係は、まさに、大宰府政庁と四王寺山（大野城跡）のような配置になっています。普段は後苑（宮殿の庭園）として利用されましたが、非常時には防御施設として用いられました。

扶蘇山城の城壁は、土を固めて築き上げる「版築（はんちく）技法」でつくられました。この技法は、太宰府の水城が築かれるときにも用いられました。これを見ると、扶餘と太宰府の歴史的なつながりを感じますよね。

扶蘇山からは、その河口あたりで白村江（はくそんこう）の戦いがあったといわれている白馬江（ペンマガン）を見下ろすことができ、山を下って白馬江の遊覧船に乗ると、扶蘇山の全景を見渡しながら風景を楽しむこともできます。そのほかに、扶蘇山には、落花岩（ナッカアム）や皐蘭寺（コランサ）などの名勝があります。

上空から見た扶餘の街並み

扶餘までは、仁川（インチョン）空港から直行のリムジンバスが毎日３便運航（所要時間３時間10分）されるようになり、大変便利になりました。扶餘の街並みも太宰府とよく似ており懐かしさを感じることができますので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

扶蘇山城の土塁

※白村江の戦い：西暦６６３年に唐・新羅連合軍と百済・倭連合軍が百済国の復興をめぐって戦い、百済・倭連合軍が大敗した戦い。

人権標語

だれとでも えがおでいられる 毎日を

太宰府西小学校４年　香月（かつき）　美輪（みわ）さん

季節の生け花

太宰府市華道連盟

小嶺（こみね）　裕子（ひろこ）（五条西区）　池坊

花材　サンシュ、アイリス

つれづれ

太宰府短歌会

愉しさに酔ひしれしごとふらつきて逢ふ魔が刻の庭にまろびつ　東観世　大久保　富士子

高鳴りて充電誘ふ補聴器に老いさぶままの日常思ふ　湯の谷西　正木　ミツヱ

呑みつづけ六十九歳（ろくじふきう）になりし今やうやく酒をうましと思ふ　三条台　木下　利孝

古紙回収されしを双手にいただきぬ「昭和天皇八十年史」　湯の谷　山﨑　八重子

吠えぬように躾けし犬のウフウフと夢見て吠える背を撫でてやる　五条　山田　乃ぞみ

太宰府句会

持永　真理子選

踏青の夢を広げてゐる大河　星ケ丘　柴田　慧美子

五感なほ健やかにして青き踏む　青葉台　武富　マサノ

小流れや花見に倦みし児の遊び　国分　松尾　満子

踏青や新しき靴躍らせて　水城　福永　恵美

のどけしや後ろ姿も似る夫婦　吉松　則松　長子

飛梅句会

林　加寸美選

少しづつ日の移りゆく春障子　高雄台　川路　泰子

福島に野に遊ぶ日のいつ戻る　大佐野　鈴木　和子

いっせいに駆け出す園児野に遊ぶ　長浦台　徳賀　美智子

草の香の野遊の子の帰りけり　馬場　野上　コト子

文机に頬杖くずれ春障子　観世音寺　野田　杉子

宝満句会

林　加寸美選

都府楼の遺構に光る春の水　石坂　門谷　とも

山門に名残惜めば百千鳥　筑紫野市　羽野　喜久代

礎石野に音もふくらむ春の水　青葉台　平野　香

万物に力を与へ春の水　大野城市　稲岡　とみ子

独り居に朝一の客百千鳥　高雄台　荒島　由美子

都久志てんじん句会

佐々木　甘露子選

山も田も崩れし修羅の水温む　筑紫野市　津和崎　幸枝

春の星一つ一つが物を言ふ　福岡市　北川　朴洋子

指切りの約束の日や水温む　青葉台　彦坂　正季

深夜船次の島へと春の灘　福岡市　宮津　英里子

春薄暮生きるだけなら容易くて　筑紫野市　貞金　志帆

太宰府川柳倶楽部

小池　一恵選

点と線結ぶと明日が見えてきた　星ケ丘　武末　次生

薄い髪DNAを確かと継ぐ　松川　山根　清

懐とレジの数字が睨めっこ　都府楼　杉　良子

うす味になると声までやわらかい　筑紫野市　東　昭秀

大滝のしぶきをくぐる岩つばめ　国分　八尋　道信